

鎌倉殿の重臣13人の1人
比企能員

比企氏

ゆかりの地 探訪



源頼朝の乳母
比企の尼



鎌倉殿を支えた
比企氏



源頼朝



2代将軍
源頼家



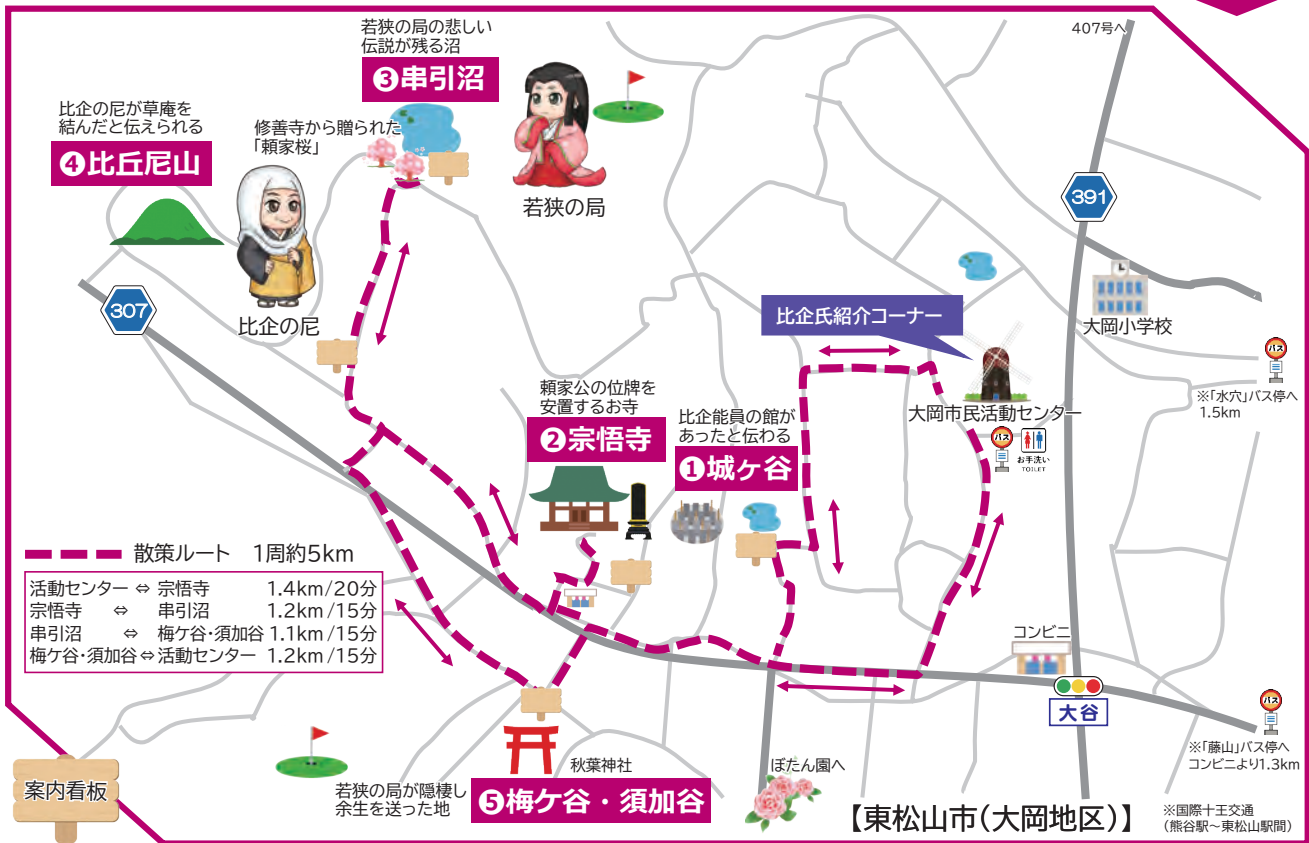
頼家の妻
若狭の局

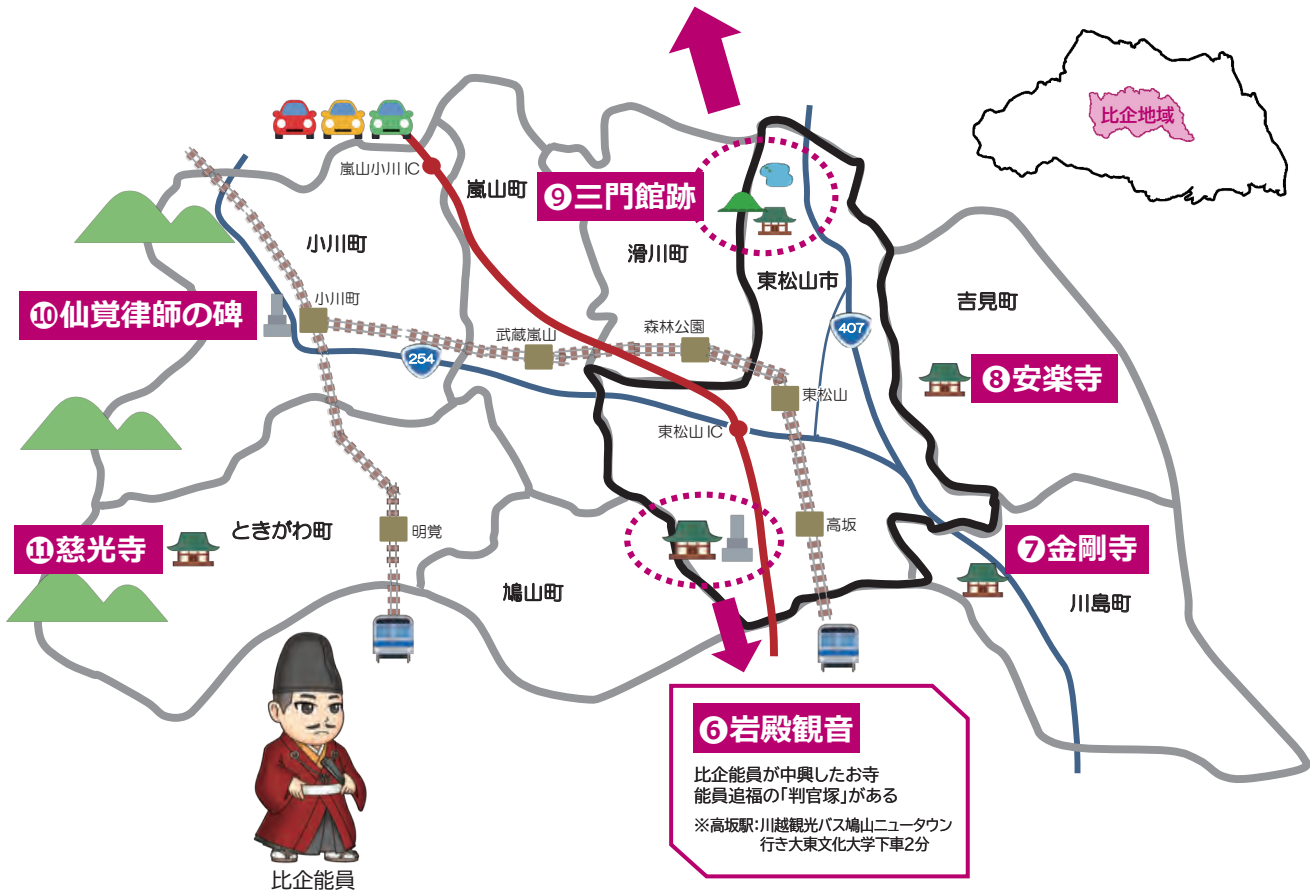


(一社) 東松山市観光協会

比企氏ゆかりの地マップ

比企氏
ゆかりの地





比企地域

⑨三門館跡

⑩仙覚律師の碑

⑪慈光寺

③安楽寺

⑦金剛寺

⑥岩殿観音

比企能員が中興したお寺
能員追福の「判官塚」がある

※高坂駅:川越観光バス鳩山ニュータウン
行き大東文化大学下車2分

比企能員

鎌倉幕府成立の立役者

比企氏

2022年大河ドラマ「鎌倉殿の13人」舞台は鎌倉時代

NHKの発表によりますと「源頼朝にすべてを学び、武士の世を盤石にした男 二代執権・北条義時が、いかにして武士の頂点に上り詰めたのかを描きます。脚本は三谷幸喜さんです」との番組の紹介があります。この13人の中に、地元比企の「武蔵武士—比企氏」が登場します。ここ東松山市には、比企氏に関する多くの伝承が残っています。比企氏とは、どのような一族であったのでしょうか？

比企一族とは 頼朝を手厚く支援

平安時代末期、比企遠宗は、清和源氏頭領、源義朝の家人でした。義朝は、久安3年(1147年)三男頼朝が生まれると、頼朝の乳母に比企遠宗の妻を任命します。

乳母とは、ただ乳をやりおむつを取り替えるだけでなく、養育の学問や教養など全てにおいて責任を持つ役目であり、家族全員で奉仕する擬制的親子関係かつ主従関係となるものです。

平治元年(1159年)頼朝13歳の時、平治の乱が起きました。平清盛の平氏と源義朝の源氏との戦です。

しかし、源氏は敗れ、父の義朝や二人の兄は戦死し、この戦が初陣の頼朝も平氏に捕らえられ死罪になるところを平清盛の継母池禪尼の助命により死は免れますが、伊豆の蛭ヶ小島に流されてしまいました。

頼朝が伊豆に移ると、比企夫婦も頼朝の世話をするために、京都から請所とされた武蔵国比企郡に移ります。

そして夫遠宗亡き後、妻の乳母は比企の尼として、伊豆の頼朝を物心両面で支援していきました。伊豆の伝承では、月に一度、比企氏からの物資が届いたと云います。

比企氏の支援は、20年の永きに及びました。頼朝の流罪永暦元年(1160年)から治承4年(1180年)に頼朝が旗揚げし、平氏の目代山木館を襲撃するまで支援を続けました。

もし、比企一族がいなければ鎌倉幕府の成立は無かったといっても過言ではありません。

頼朝旗上げ後、比企氏は一族をあげて頼朝の武士政権「鎌倉幕府」の成立に貢献します。頼朝も比企の尼の恩に報いるため、比企家の当主比企能員を上野や信濃の目代にしました。



平家物語絵巻 三条殿焼討ち





鎌倉妙本寺比企氏一族の墓



鎌倉長興山妙本寺総門

北条氏との争い

寿永元年(1182年)頼朝の長男頼家が産まれると能員は頼家の乳母父になり、比企氏の女性達が乳母になりました。しかし、次男実朝が産まれると、政子の妹阿波の局など北条氏の女性達が乳母になったのです。ここに悲劇の種が蒔かれます。

その後、比企能員の娘 若狭の局は、頼家に嫁ぎ、建久9年(1198年)に頼家の長男一幡を産みます。しかし、建久10年(1199年)1月に頼朝が亡くなり、頼朝の跡目は18歳の長男頼家が継ぎ二代将軍となりました。

これにより比企氏が将軍頼家の外戚として力を付ける事を恐れた北条時政は策略を巡らします。ついに建仁3年(1203年)頼家が病にかかると、同年9月2日、比企氏を倒すため北条邸で薬師如来の法要があると偽り、比企能員を自分の屋敷に招き殺してしまいました。

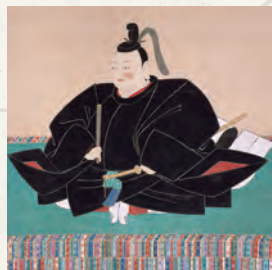
北条氏の軍は比企谷の比企邸も襲い、比企一族は滅亡したのです。

北条時政は、頼家の将軍職を解き、修善寺に幽閉、北条氏が乳母をした実朝を三代将軍にし、後見人として権力を握るのです。

頼家は、翌年7月18日に北条氏により殺されてしまいました。この時、頼家の側にいた若狭の局は、夫頼家の位牌(遺骨説もあり)を持ち、武蔵国大谷村に逃げてきたと云われます。

この争いは比企氏の陰謀(比企の乱)と呼ばれていますが、京都の公家や僧侶の日記などから、比企氏から権力を奪取するための北条氏の陰謀とみてよいようです。

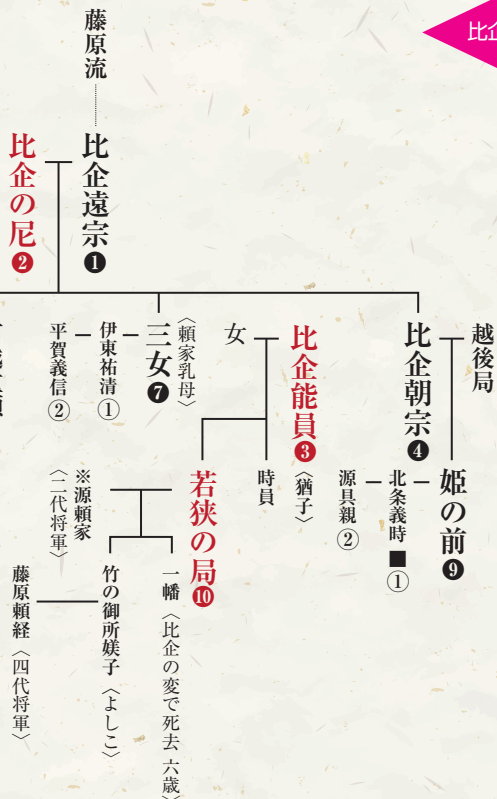
修善寺より逃げてきた若狭の局は大谷に、村の名と頼家の法号「寿昌」を用いた大谷山寿昌寺を建立し、頼家の菩提を弔ったと伝わっています。



二代将軍源頼朝(修禅寺提供)

※鎌倉長興山妙本寺

比企一族の菩提を弔うため能員の末子能本が、比企氏の館跡にあった自らの屋敷を日蓮聖人に献上したのが始まりといわれます。日蓮聖人は、文応元年(1260年)比企能本の父・能員と母に「長興」「妙本」の法号をそれぞれ授け、この寺を「長興山 妙本寺」と名付けました。
(日蓮宗本山比企谷妙本寺 HP)



源満仲—頼信—頼義—義家—義忠—為義—義朝

〔注〕
源氏系図

表中①②は婚姻した順を示す。

比企氏関係者

1 比企遠宗

源義朝の家人。頼朝の乳母父となるが、平治の乱の傷がもとで比企に移住後早くして亡くなる。

2 比企の尼

頼朝の乳母。夫遠宗亡き後、伊豆の流人頼朝を二十年もの間、物心両面で支援する。

3 比企能員

比企家の猶子（比企の尼の妹の子）。比企家の当主となる。

4 比企朝宗

比企家の長男。北陸道勸農使を務めるが早世か？

5 丹後内侍

京都で二条院に仕えた絶世の歌人。安達盛長に嫁ぐ。
島津家初代島津忠久の母、父親は惟宗広言説・源頼朝説の二説あるが、島津家系図では父親は源頼朝としている。

6 比企二女

秩父氏の一族河越重頼に嫁ぐ。源義経の縁坐で夫重頼と長男亡き後、河越の家を守り復権を果たす。

7 比企三女

平氏伊東祐清に嫁ぐ。頼朝旗揚げ後、平家に味方する祐清と別れ、源氏の武将平賀義信に再嫁する。

8 郷姫

京姫とも言う、義経の正妻。十六才で嫁ぐが、最後は衣川の館で義経と四才の姫とともに自害して果てる。

9 姫の前

比企朝宗の娘。権威無双・容姿秀麗な幕府の女官、北条義時に惚れられ頼朝の仲介でその妻となる。比企の乱後、義時と別れ京都に移り源具親に再嫁する。

10 若狭の局

二代將軍頼家の妻。長男一幡を産む。比企一族滅亡の後、幽閉される頼家に従い修善寺で暮らす。頼家の死後、武蔵国大谷村へ逃げ、頼家の菩提を弔ったと云われる。

1 城ヶ谷

「埼玉県史」や「埼玉の神社誌」に、城ヶ谷には比企能員の館があったと記されており、伝承でもそのように伝えられています。

大岡地区の雷電山真南にある奥深い谷が、いわゆる「城ヶ谷」と呼ばれ、この谷の奥にある沼が城ヶ谷沼です。

しかし、残念ながら、これまでに館跡は発見されていません。確かに、この地は鎌倉の比企谷によく似た地形で、中内出と呼ばれる最も早くから開かれた地域にあり、谷の北から東に連なる丘陵には、多くの住居跡とその祠がありました。

このあたりは比企の乱後、若狭の局に従って落ちて来たと伝わる頼家の側近の子孫が住み、谷の西の丘には鎌倉の八幡宮を祀っていたと伝わっています。



城ヶ谷

【所在地】
東松山市大谷 3453 付近



2 扇谷山宗悟寺

宗悟寺には、若狭の局が持ち帰ったと伝わる「頼家公の位牌」や若狭の局が夫頼家を失った苦しみから逃れるために祀った「蛇苦止観音」、当寺開祖の森川家から寄贈された森川氏の陣羽織などが伝えられており、寺の墓地には市指定文化財森川氏の墓地も整備されています。

また、境内には地元の有志による比企一族顕彰碑が設置されています。

宗悟寺は、天正 18 年(1590 年) 徳川家康の関東転封に伴い大谷村や山田村を知行した旗本森川金右衛門氏俊の菩提寺です。森川氏は、徳川家康の旗本として姉川の合戦や小牧・長久手の戦いなどに参加し活躍しました。

森川氏は、大谷村や山田村を知行するとしばらく大谷に居住し、比丘尼山にあった大谷山寿昌寺を現在の扇谷に移し、寺の名を「扇谷山宗悟寺」と変えました。森川金右衛門氏俊の法号は「桐蔭宗悟居士」と云います。



宗悟寺本堂



頼家公ご位牌と蛇苦止観音



森川氏墓地



【所在地】
東松山市大谷 400



3 串引沼・大谷山寿昌寺

比丘尼山の北に、串引沼という大沼があります。

串引沼には、夫頼家を修善寺で殺された若狭の局の悲しい伝説が伝わっています。

「夫頼家を殺された若狭の局は、ここ大谷村に逃れ比丘尼山の草庵に住み、夫頼家の菩提を弔っていました。

祖母比企の尼の勧めで、深い悲しみを断つため頼家形見の鎌倉彫の櫛を沼に投げ込みました。

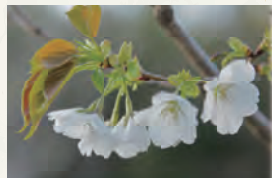
その時若狭の局はもちろん、比企の尼の両眼からも涙がとどどなく流れ落ちていました。時は元久2年(1205年)7月半ば、丁度、夫頼家の命日に当たる日であったと云います」

若狭の局は、現在はゴルフ場の中となりますが、比丘尼山の西、源泉沼の近くに大谷山寿昌寺を建て、頼家の菩提を弔ったと云われています。寿昌とは頼家の法号です。

土手に並ぶ桜は、修善寺から寄贈された山桜で、頼家桜と呼ばれ真っ白い小さな花が咲きますが、ソメイヨシノのように華やかではなく若狭の局のようにしとやかに咲く山桜です。



串引沼



頼家桜

【所在地】
東松山市大谷 356 付近



4 比丘尼山・横穴墓群

比丘尼山は女性が横たわったような美しい山です。

その昔、比企郡司の比企遠宗の妻であった比企の尼が遠宗の没後禅尼となって草庵を営んだところと伝えられています。

『郡村誌』には、この比丘尼山について

「高一丈周囲八町 村の西にあり 往事源頼家伊豆国修善寺に於て薨せし時、若狭の局遺骨を奉し此村に來り、遺骨を葬り、庵を結び居住せしにより、庵を修善寺と呼び山を比丘尼山と呼ぶと口碑に伝う…」と記しています。

比企地区には、理由は分かりませんが、鎌倉と同じ呼称の土地が多くあります。比丘尼山から南は、字こそ違え伊豆の修善寺と同じに、主膳寺と呼ばれている地域です。その他にも扇谷・梅ヶ谷・菅谷・滑川・腰越・大蔵などがあります。

比丘尼山の南面には、横穴墓が造られており、市指定史跡となっています。40～50基余りの横穴墓が分布していると思われ、うち3基が開口しています。三千塚古墳群の1つで吉見百穴と同様の7世紀頃に造られたものであると思われます。



比丘尼山



横穴墓

【所在地】
東松山市大谷 264 付近



5 梅ヶ谷・須加谷

秋葉神社の西側を「梅ヶ谷」、東側を「須加谷」と呼ばれています。

当神社は、火伏の神様として信仰を受けている神社です。江戸時代の領主森川氏は、この神社を江戸の本郷の屋敷に分祀し、守り神としていました。

当神社西側の梅ヶ谷は、若狭の局が年老いて隠棲した所と伝えられています。昔から梅の古木の多い美しい花園であったと云われます。

当神社東側の菅谷には、比企西国三十三札所菅谷観音堂がありました。

この観音堂には蛇苦止観音が祀られていました。若狭の局は、頼家を殺され悲嘆にくれ、それはあたかも体を蛇に巻き付かれたような苦しみ方でありました。そこで、この蛇による苦しみを鎮めるため蛇苦止観音をつくり、ここ菅谷にお堂を建ててお祀りしました。

菅谷観音堂は、今はありません。蛇苦止観音は、今は宗悟寺に祀られています。また、この地は現在、須加谷と呼ばれており、観音堂跡は竹林になっています。



秋葉神社



梅ヶ谷



須加谷

【所在地】
東松山市大谷 553 付近



【修善寺頼家まつりと若狭の局】

静岡県伊豆市にある修善寺では、毎年7月に頼家まつりを開催しています。

この祭りは修善寺に幽閉され殺された二代將軍源頼家の菩提と頼家の部下13人の菩提を弔って、頼家の命日7月18日に近い海の日に開催されています。

祭りでは、頼家や若狭の局に扮した武者行列が、修善寺の町を練り歩き、頼家公のお墓と頼家の家臣十三士のお墓の前で墓前祭が行われます。

この頼家まつりは、当東松山市観光協会も伊豆市観光協会に協力しており、東松山市観光大使のピオニメイツが若狭の局に扮して参加しています。



修善寺境内での記念写真



山門の前で東松山市の紹介



頼家公・一幡・若狭の局



十三士の供養



頼家公のお墓にお参り

6 岩殿観音・巖殿山正法寺

岩殿観音の呼び名で親しまれる観音様。阪東三十三観音霊場第十番札所。

【創建】逸海上人 養老2年(718年)

【中興】鎌倉時代に比企能員が中興し、観音堂建設や北条政子の守り仏千手観音を安置しました。

※永禄年間(16世紀中頃)松山城合戦の兵火で全山焼失

【再建】栄俊 天正2年(1574年)

※その後幾多の火災に遭い、現在の観音堂は明治時代に移築した建物です。

【ご本尊】正法寺…阿弥陀如来立像(鎌倉時代の作)

岩殿観音堂…千手千眼観自在菩薩

※現在の本尊は室町時代の作と云われています。

【仁王門】額「巖殿山」加賀大乘寺四十三世貫主愚禅和尚の書です。仁王像は運慶作でしたが、江戸時代に焼失し文化年間(19世紀初め)に再建されたものです。

【上田朝直制札】天正2年(1574年)3月に戦国時代の松山城主上田宗調朝直が発した制札。巖殿山一体の木や草を刈り取ることを禁じたものです。

【銅鐘】元享2年(1322年)鑄造、外面に無数の傷が付いており、天正18年(1590年)に豊臣秀吉よる関東征伐の際に、兵を鼓舞するために山中を引き回した傷だと云われています。

【鐘楼】元禄15年(1702年)建造、東松山最古の木造建築。

【大銀杏】樹齢700年と云われる大銀杏です。

【判官塚・判官神社】判官塚は比企能員の追福のために、築きしものと伝わっています。

【岩殿観音に伝わる伝説クツワムシ】

「ある秋の夜、ここ巖殿山正法庵に、尼僧姿の女性が供の者と訪ねてきた。これは比企の乱により鎌倉から落ちてきた比企能員の妻であった。庵主は恩人であるこの尼僧を守るために、小さな庵を貸してかくまった。

しかし、この庵の周りには、季節柄たくさんクツワムシがいた。そこで、庵主は寺男に命じて、巖殿山のクツワムシを残らず根絶やしにしてしまった。理由は、クツワムシは敏感な虫で、人の気配を感じて鳴き出すからである。虫が鳴いては庵に人がいることが知れてしまうと考へて行ったことであった。この配慮によって能員の妻は無事に男児を出産した」



岩殿観音



仁王像



額「巖殿山」



鐘楼



判官神社

【所在地】
東松山市岩殿 1229



比企氏伝承の地

— 比企地域 —

せいげつざんこんこうじ

⑦ 清月山金剛寺 (川島町)

「比企氏系図」が伝わる寺。比企一族の菩提寺。

【中興】創建は不明 比企左馬助則員が中興

【ご本尊】阿弥陀如来。阿弥陀如来像は鎌倉時代の作。

膝裏墨書銘には、願主比企左馬助藤宗則とあります。

【位牌堂】境内に比企氏の位牌堂である大日堂があります。天井には狩野派の画風と伝えられる龍が描かれています。大日堂と山門は、令和3年(2021年)に国の登録有形文化財に登録されています。



金剛寺本堂



比企氏四代の墓 大日堂・比企氏位牌堂

【所在地】
川島町中山 1198



比企氏伝承 金剛寺には、比企氏四代の墓があります。十五代比企則員、十六代比企義久、十七代比企重久、十八代比企久員を含む歴代の墓があり、墓地の周囲には掘割が残り、比企氏の館跡と思われる姿をとどめています。

松山城攻防戦 天正18年(1590年)の豊臣秀吉の小田原攻めの際、松山城は前田利家の軍に包囲されますが、北西の守りに比企左馬介則員がついています。

いわどのさんあんらくじ

⑧ 岩殿山安楽寺 (吉見町)

吉見観音と呼ばれ親しまれている阪東三十三観音霊場第十一番札所。

【創建】今から約1300年前に行基上人が観音を掘り、岩屋に納めたのが始まりです。

【ご本尊】聖観世音菩薩

【県指定文化財】本堂・三重塔・仁王門

比企氏伝承 源義朝の六男源範頼は、蒲の御厨(浜松市)で生活していました。しかし、平治元年(1159年)の平治の乱で源氏が負けたために、心配した比企の尼は、頼朝の弟範頼を吉見の岩殿山安楽寺に稚児僧としてかくまい、命を助けたと云われます。

鎌倉幕府成立後、範頼は吉見を領地とし、吉見の息障院の場所に居住したと云います。息障院の周囲には堀の跡も残り、この辺は、御所と呼ばれる場所です。



吉見観音本堂



三重塔

息障院

【所在地】
吉見町御所 374



9 みかどやかたあと 三門館跡 (滑川町)

三門館跡は和泉にある泉福寺より東に約200mの位置にあります。この館跡は発掘調査などが行われていないため詳細はわかりませんが、源頼朝の父である義朝などに仕えた比企遠宗の館ではないかとする説があります。また、吾妻鏡にある記述から毛呂氏の所領とする説もありあります。

比企遠宗の妻 比企の尼は、頼朝が伊豆に配流されてから平家打倒のために挙兵するまでの約20年間にわたり支援したと云われます。遠宗の館とする上記の説によれば、この三門館から米などが送られていたのではないかと考えられます。

館跡は、北西と南東に2つの丘陵があり、その間の四方約200mの範囲が館の敷地であったとされています。北西・南東の丘陵上、北東の谷部の3方を空堀と土塁で囲っていたとされ、現在はその一部の空堀と土塁が残っています。



二宮山展望塔から見た館跡



今も残る館の空堀

【所在地】
滑川町和泉地内



10 せんがくりっし 仙覚律師の碑 (小川町)

仙覚は、比企一族が北条氏の陰謀で滅亡した建仁3年(1203)年、「東路の道のはて」今の茨城県で生まれたことが、仙覚の記した「仙覚律師奏覧状」などからわかります。仙覚は、能員の内室の子とする伝承があるほど比企一族とは深い関わりのある人物とされています。

7歳で寺入りし、13歳から万葉歌の研究を始め、鎌倉四代將軍頼朝の命を受け、44歳から比企一族ゆかりの地、比企谷の新釈迦堂で万葉歌の研究に打ち込みました。

仙覚律師となり、天台密教の僧として研鑽を重ねてきた悉曇文字や万葉仮名を駆使し、64歳で全く読めなかった152首を含め、4,500首以上の歌を全て読み『万葉集』を完成させました。

その後、研究地が小川に移ります。難解な『万葉集』を後世に託すには、解説書が重要であるとして編さんにとりかかり、67歳で日本初の『万葉集註釈』を小川町で完成させました。

この業績を称える仙覚律師顕彰碑が中世の城跡「中城」に建立されたのは、佐佐木信綱により仙覚の功績が広く認められた昭和3年(1928年)で、4mを超える碑の撰文と仙覚賛歌も信綱が寄せています。



仙覚律師顕彰碑

【所在地】
小川町大塚 351



II ときさんじこうじ 都幾山慈光寺（ときがわ町）

阪東三十三観音霊場九番札所

【創建】寺伝によると白鳳2年（673年）僧慈訓が千手観音堂を建立し観音道場とし、その後、役小角が来山し西藏坊を建立し修験の道場とした事に始まるとされています。

【ご本尊】十一面千手千眼観世音菩薩像

【文化財】〔国宝〕法華経一品経・阿弥陀経・般若心経 33巻

〔国重文〕紙本墨書大般若経、銅鐘、金銅密教法具、開山塔

〔県指定〕木造千手観音立像、木造宝冠阿弥陀如来坐像、木造聖僧文殊坐像、経箱、青石塔婆、蔵骨器

比企氏伝承 慈光寺は、比企氏の頭領である源頼朝に深く尊信された寺でした。頼朝は、文治5年（1189年）奥州征伐の勝利を慈光寺に祈願し、日頃信心している愛染明王像を贈り、別当厳耀並びに衆徒らに勝利を祈祷させるよう命じています。

吾妻鏡によると、頼朝が治承3年（1179年）3月2日、安達盛長を御使として、御署名入りの洪鐘を鑄造して伊豆国より寄進したと記されています。



観音堂



国宝 法華経一品経
(日本三大装束経の一つ)



寛元3年（1245年）の銅鐘
(鎌倉の大仏や建長寺の銅鐘を鑄造した物部重光の作)

【所在地】
ときがわ町西平 386



【比企氏紹介コーナー】東松山市大岡市民活動センター

本書で紹介する「比企氏ゆかりの地」各史跡について、現在、パネル展示をしています。また、各種観光パンフレット等を設置しています。

東松山市大岡地区の「比企氏ゆかりの地」めぐりの出発点となります。お気軽にお立ち寄りください。



大岡市民活動センター



比企氏紹介コーナー

【所在地】東松山市大谷 3400-10
【問合せ】0493-39-0602



◇◇ 少し足をのばして ◇◇

農林公園・丘の上のカフェ

Heuvel (フーヴェル)

「農・食・遊の体験施設」

東松山市農林公園 (休園日: 月曜日)

桜やヒマワリ、コスモス等の季節ごとの花が
楽しみ、12～5月のいちご摘取りの他、野菜の
収穫体験等が出ます。

丘の上のカフェHeuvelで東松山市の農産物を
使った美味しい軽食やスイーツをどうぞ!



【所在地】東松山市大谷 4212-1
Tel 0493-39-0150



東松山市のお土産

東松山市観光案内所

東松山産コシヒカリを100%使用の純米吟醸
酒「比企の春」の他、東松山市のお土産や商品
を取り揃えています。

(9:30～15:30 定休日: 水曜日)

【所在地】東松山市箭弓町 1-12-11 東松山市ステーションビル 2階 Tel 0493-22-8765



農産物直売所「いなほてらす」

JA 埼玉中央の東松山直売所
地元東松山の農産物やお土産も揃えています。
地元野菜や名物グルメが楽しめるフードコートも
併設しています。

(定休日: 第2木曜日)

【所在地】東松山市下青鳥 714-1
Tel 0493-24-3157



令和4年3月

発行：一般社団法人東松山市観光協会

東松山市松葉町1-2-3

東松山市総合会館1階

TEL 0493-23-3344

協力：比企一族歴史研究会

